

# 「夢の舞台に立ちたくて」

三浦 先輩。熱い人間。

塚田 三浦の後輩。三浦のフォロワー。

輪島 一番後輩。現実主義。

座り込む三浦。側で塚田が励ましている。

塚田 元気出しましょう？

三浦 うん・・・いや、ちょっと一人にしてくれ。  
塚田 でも・・・。

輪島が顔を出す。

輪島 塚田さん。あれ？どうしたんですか？

塚田 ああ・・・三浦さんが、ちよっと。

輪島 三浦さん？え？どうしたんですか？

三浦 なんでも無いよ。うん・・・なんでも、無いんだ。なんでもな・・・。  
輪島 全くなんでも無い感じじゃ無いですけど。え？三浦さん、どうしたんですか？

塚田 さつき連絡があって・・・三浦さん、サッカーワールドカップ日本代表から外れたらしい。

輪島 え？

三浦 いや、いいんだ。俺の実力が足りなかったんだ、ろうなあ・・・。

輪島 え？・・・何ですか？

塚田 輪島・・・。

三浦 仕方ないんだ。俺の実力が・・・、

輪島 いや、僕らケーキ屋でしょ？何で選ばれると思ったんですか？

目を伏せる三浦。塚田は口に指を当てる。

輪島 いや、「シー」じゃなく。え？呼ばれる要素ないでしょ？何で落ち込めるんですか？

塚田 そういう事言うんじゃないよ輪島。

輪島 いや、言うでしょ普通。だって呼ばれる可能性あったんですか？

三浦 無くは・・・無いよ。

輪島 え？ケーキ屋さんなのに？ケーキ屋さんなのに呼ばれる可能性ありましたか？

三浦 あるよ……。

輪島 え？何で？何で呼ばれるんですか？

三浦 俺……サッカー上手いし。

輪島 それ本当に上手いんですか？それ小学校時代とかじゃ無いんですか？

塚田 止める輪島。そんなに言う必要ないだろ。

輪島 いやだって落ち込む理由が判らないから。絶対選ばれないでしょ。

塚田 判らないだろ！

輪島 ケーキ屋さんですよ？僕らケーキ屋さんですよ？選ばれないでしょ？

塚田 一般的にはそうだけど、

三浦 もういいよ塚田。輪島の言う通りだ。確かに俺が日本代表に選ばれる確率は殆ど無かった。

塚田 三浦さん。

輪島 ゼロですよ？

三浦 ……まあ殆どゼロだった。

輪島 ゼロですよ？殆どじゃなく。ゼロですよ？

三浦 ……(ゼロとは言えずに口をパクパクする)

塚田 輪島、もう止める！三浦さんは昔、サッカーをやってたんだ……。

三浦 高校までずっとサッカーに明け暮れ、そこその大会で、そこその成績も残した。大学時代は、まあテニスサークルだったけど、それを除けば、大体サッカー少年だったんだ……。

三浦 塚田……。

塚田 サッカーをやっていたら、皆一度はワールドカップ出場って夢をみるんだ。だから輪島、三浦さんにも四年に一回くらい、夢見させてやれよ！

三浦 塚田……。

輪島 いや、普通におかしいでしょ？

塚田 え？

輪島 絶対選ばれないし。そもそもサッカー続けてないし。だって今仕事何やってます？

三浦 ケーキ屋さん。

輪島 ケーキ屋さんですよ？ケーキ屋さんがサッカー日本代表に選ばれた事ありますか？塚田さん、無いですよ？

塚田 無い、です。

輪島 無いですよね？三浦さん、何で落ち込めるの？

三浦 ・・・すみません・・・。

輪島 そうですよ。じゃ、スポンジ焼けたんで、クリームの塗ってもらっていいですか？僕苦手なんです。

三・塚 はい。

輪島 ・・・ダッシュ！

三・塚 はい！